

# 飯伊 産業経済動向

No.496 2020/7  
(2.8.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK  
飯田信用金庫  
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,707	枚	△	10.4 %	△	25.5 %
	金額	3,487,706	千円	△	28.0 %	△	27.2 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上) (6月)	県内	10	件	(前月 6 件)		(前年同月 3 件)	
	飯伊	1	件	(前月 0 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(6月)		65	戸		51.2 %		14.0 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(6月)		0.88	倍	(前月 0.85 倍)		(前年同月 1.40 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,204	台		12.7 %	△	19.4 %
	中古車	881	台		15.0 %		10.1 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (6月)	新車	3,706	台		94.8 %	△	14.2 %
	中古車	1,323	台		21.7 %		24.9 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	90,210	台		5.7 %	△	22.0 %
	出	90,694	台		5.4 %	△	22.9 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	61,178	台		2.3 %	△	22.7 %
	出	59,022	台		0.6 %	△	22.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	10,626	台	△	23.3 %	△	17.4 %
	出	10,903	台	△	22.2 %	△	17.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	33,244	台		8.5 %	△	18.6 %
	出	22,338	台		5.0 %	△	19.2 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		520	件	△	17.6 %		219.0 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2	件	(前月 0 件)		(前年同月 3 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	4,617	人	△	7.1 %	△	82.4 %
	飯田～名古屋	5,736	人		36.8 %	△	68.8 %
	飯田～長野	4,049	人		16.8 %	△	57.0 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	2,507	人		167.8 %	△	88.4 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,784	人	△	11.1 %	△	26.3 %
	右回り	2,716	人		0.4 %	△	25.1 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を  
使用しています

# 概 況

## 製造業

7月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス55.6で、前月から1.8ポイント低下。翌月予測はマイナス46.2で、前月から23.0ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比減少～やや減少。前年比はやや増加との声も複数聞かれるが、景況感は悪化した業者が多い。産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、減少～横ばいも、減少、やや減少との声が多い。「単価は下げないと受注できない状況」など、販売価格に下押し圧力がかかっているとの声は多い。建築用金属製品の販売は、前月比やや増加も、前年比は減少との声。「少し回復傾向」といった声が寄せられ、先行きに上向き感があるという。自動車向け部品の生産は、景況感の好転には至らないものの、前月比、前年比とも増加との声。小型電磁機器の生産は、前月比やや減少も、前年比増加との声。先行きも現状で推移する見込みという。FA関連モーターの販売は、前月比概ね横ばい。とはいえ「コロナによる世界経済への影響懸念される」など景況感は悪化しており、先行きも弱含みという。光学機器部品の受注残高は、前月比、前年比とも減少、景況感も悪化との声が寄せられた。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、先行きも弱含みとの声。

## 地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前年比減少との声が多い。「スーパー、ドラッグストア向けは良好だが、コンビニ向けは減少が続いている。輸出やイベント向け、お土産向けは引き続き悪い状態が続いている」など販路によって好不調がある様子。水引製品の売上の前月比は、やや減少～概ね横ばい。「冠婚葬祭もますます悪化しており、来春まで低迷するのではないかなど、景況感が悪化した業者が多い。漬物の販売は、前月比やや減少との声。「コロナの再拡大で、少し戻りかけていた業務用需要も再び低迷し始めている」という。

## 建設業

7月の建設業の景況DIは0.0で、前月から8.3ポイント低下。翌月予測DIはマイナス15.4で、前月から7.7ポイント上昇している。

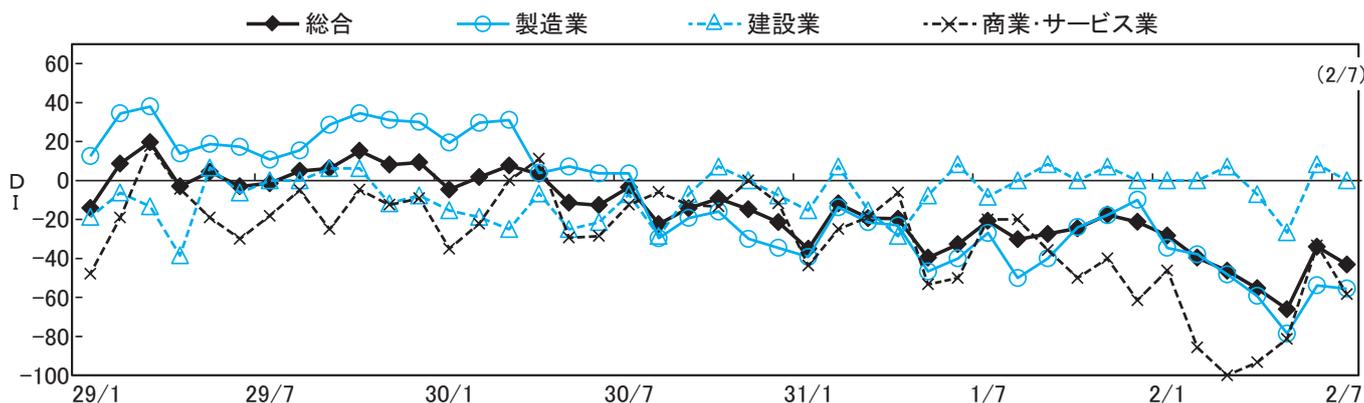
当月の受注残高の前月比は、増加した業者、減少した業者分かれるが、横ばい～増加との声やや多い。「仕事はしっかりとおある」などの声や、「発注件数は昨年よりも少ない」などの声が寄せられた。「進捗が激減。手戻りも発生するなど長雨の影響は大きい」など長雨の影響を指摘する声が複数寄せられた。

当地区の6月の住宅着工戸数は65戸。前月比51%増加、前年比も14%増加。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、おおむね横ばい。当月、コロナの影響を指摘する声が多く、「民間工事の冷え込みもかなりの影響が出るのではないかな」「民間は、設備投資の見直し、建築計画の延期や見直しが生じており、工事量は減少」などの声が寄せられた。

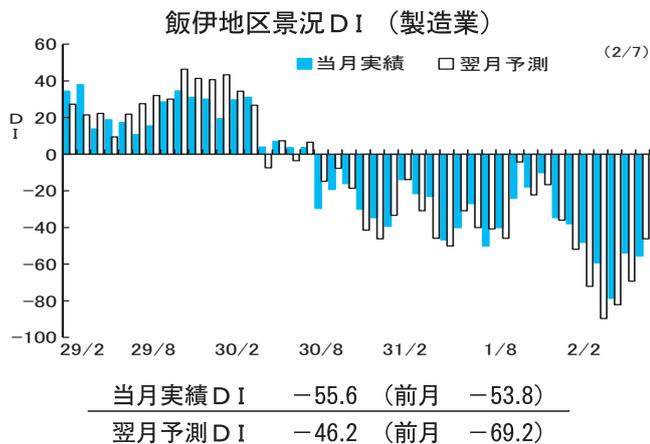
## 商業・サービス業

食料品の売上の前月比は、業者により増減が分かれる。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感はやや悪化との声。家事用品の販売では、「個人消費の落ち込みがひどい。今回は、簡単には戻らないと思う」などの声が寄せられた。電化製品の売上は、前年比やや減少も、これは前年度特殊な事情があったため「一昨年対比では伸びている」という。OA機器の売上は、前月比やや減少との声。衣料品の売上は、前月比減少も、前年比やや増加との声。商品券配布の効果伝える声も。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前年比19%減少。一方、中古車は前年比10%増加。6月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前年比14%減少。中古車は、前年比25%増加した。市内料理店からは、「5月までに比べると、前年比が少しずつ回復している。緊急事態宣言が解除され、宴会や食事の需要が徐々に増えている」などの声が寄せられた。市内宿泊施設の売上は、前月比増加、前年比はやや減少との声。昼神温泉の売上は、前年比減少、「週末に集中しているが、長雨でキャンセルも多かった」などの声。タクシーの売上は、前月比増加も、前年比は減少との声が寄せられた。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



## 地区内製造業の景況判断指数



当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス55.6で、前月から1.8ポイント低下。翌月予測はマイナス46.2で、前月から23.0ポイント上昇している。

### 【2020年版ものづくり白書から】

2020年版ものづくり白書が公表されている。今回はそのごく一部を抜粋してご紹介する。

今回の白書では、まず、製造業を取り巻く環境として、コロナに限らず、イギリスのEU脱退や米中貿易摩擦など「各国の政策や国際情勢、事業環境の急激な変化等の予測しづらい事態（＝不確実性）が高まっている」と分析している。製造業においても、今回のコロナで、世界的に広がったサプライチェーンが寸断され、大きな影響を受けた。だからといって国内に回帰したとしても、今回の令和2年7月豪雨で県内事業所合計で133百万円の被害（7/31現在。長野県産業労働部）があったとされるように、別の不確実性リスクも考えられる。さらには「自動車産業は、CASEと言われる、100年に1度の大きな変革に直面していると言われる」といった、「非連続な変化を引き起こすデジタル技術革新」もまた、「製造業に大きな恩恵をもたらすものであると同時に、製造業が直面する不確実性の1つといえる」という。

そこで、今年の白書では、こうした「不確実性の高い世界では、環境変化に対応するために、組織内外の経営資源を再結合・再構成する経営者や組織の能力（ダイナミック・ケイパビリティ）が競争力の源泉となる」としている。

ダイナミック・ケイパビリティは、優れた打者がどのような球種も球筋を見極めて打ち返すように、どのような不測の事態が起きても柔軟に対応できる反射神経のようなものとされ、業務効率化、コスト削減、安

### オーディナリー・ケイパビリティとダイナミック・ケイパビリティの相違点

	オーディナリー・ケイパビリティ	ダイナミック・ケイパビリティ
目的	技能的効率性	顧客ニーズとの一致 技術的機会やビジネス機会との一致
獲得方法	買う、あるいは構築（学習）する	構築（学習）する
構成要素	オペレーション、管理、ガバナンス	感知、捕捉、変容
ルーティン	ベスト・プラクティス	企業固有の文化・遺産
経営上の重点	コストコントロール	企業家的な資産の再構成と リーダーシップ
優先事項	「ものごとを正しく行う」	「正しいことを行う」
模倣可能性	比較的模倣できる	模倣できない
結果	効率性	イノベーション

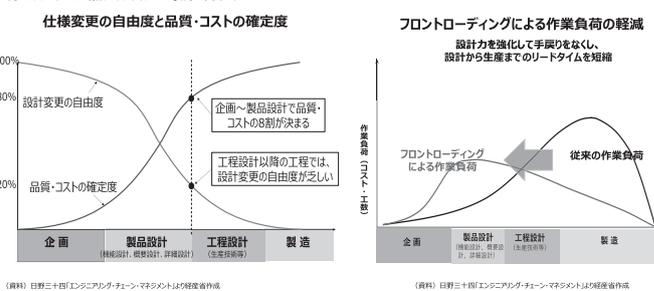
定稼働、品質管理といった、予測に基づいて「与えられた経営資源をより効率的に利用して、利益を最大化しようとする能力（オーディナリー・ケイパビリティ）」とともに、「企業活動の両輪」とされる。

白書では、「デジタル技術は、製造業のオーディナリー・ケイパビリティのみならず、ダイナミック・ケイパビリティをも高める上で、大きな可能性を秘めている」とし、例えば、設計段階でデジタル・ツールなどを使ってシミュレーションができれば、設計の作業負担が下がってリードタイムを短縮でき、これまで数か月かけて作っていたものが数週間、数日で作れるようになる。ダイナミック・ケイパビリティの議論に即して言えば、変化に素早く対応できる（反射神経が高い）ことになるという。

### 第1章 第3節 企業変革力を強化するデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

#### 2. 設計力強化戦略①

- デジタル化の進展に伴い、競争力の源泉はエンジニアリング・チェーン<sup>(※)</sup>の上流にシフト。
- エンジニアリング・チェーンの上流を厚くすることで設計力を強化し、設計から生産までのリードタイムを短縮。こうしたフロントローディングにより企業変革力（ダイナミック・ケイパビリティ）を強化。



（引用、図表出典はすべて「2020年版ものづくり白書」）

### 機械加工製造業

電気、精密機械器具の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。こうした業者では景況感も悪化しており、先行きも弱含みという。雇用面、設備面は、当面現状維持の様子。原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかったという。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比減少～やや減少。前年比はやや増加との声も複数聞かれるが、景況感悪化した業者が多い。「コロナの影響で設備投資がスリップした状態が続いている」「FPD関連は減少」「減産中」「生産調整に入っている。が、いつまで続くかが分からない」などの声が聞かれ、先行きも弱含みとの見方が多い。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、販売面では「コストダウン要請は強い」という。雇用面では、一部に積極的な声もあるが、現状維持との声が多い。設備面では、「改善活動でレイアウト変更を予定」「今月実行したが、今後当面は行わない」などの声が聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、減少～横ばいも、減少、やや減少との声が多い。「医療機器向けは低位安定」「防衛関連には希望があるというものの、航空機関連の減少は大きい」「加工ロット数が減少。経済活動は大幅にダウン」「前月に比べ受注は増加したが、これは先月の受注が少なすぎたため。売上は前月比でも減少している」「海外の設備向けが動かないと、国内向けだけでは厳しいが、海外向けは

減少している」「設備向けが動かないとよくない」「仕事の波が多く、売上が伸びない」などの声。こうした中、「短納期案件はある。工程の柔軟な対応が必要」といった声も。先行きに関し、一部に上向きとの声もあるが、「すべての製品で9、10月の落ち込みが見える。先もどこまで行くのかわからない」「年内は厳しいのではないか。コロナ、米中関係、要因は沢山ある」「産業向けは9月から下降を見込む。どこまで続くか読めない」「回復という情報もあったが、材料商社の話では、今後低下するとの声も」といった声が多い。

こうした中、「単価は下げないと受注できない状況」「値引きは厳しい」など、販売価格に下押し圧力がかかっているとの声は多い。雇用面では、一部に「正社員を補充したい」との声もあるが、「過剰感が出るかもしれない」といった声のほか、現状維持との声が多数を占める。設備面でも「計画なし。いったん凍結」など、積極的な声は聞かれない。

**建築用金属製品**の販売は、前月比やや増加も、前年比は減少との声。「少し回復傾向」といった声が寄せられ、先行きに上向き感があるという。雇用面では現状維持の様子。設備面では先行き積極的な声も。

**自動車向け部品**の生産は、景況感の好転には至らないものの、前月比、前年比とも増加との声。先行きに大きな動きは見込まれていない様子。

**小型電磁機器**の生産は、前月比やや減少も、前年比増加との声。先行きも現状で推移する見込みという。雇用面、設備面では現状維持の様子。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。

**FA関連モーター**の販売は、前月比概ね横ばい。とはいえ「コロナによる世界経済への影響懸念される」など景況感悪化しており、先行きも弱含みという。

**光学機器部品**の受注残高は、前月比、前年比とも減少、景況感悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

**電気、電子製品**の生産は、前月比やや減少、先行きも弱含みとの声。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。研究、開発人員の不足感を指摘する声が依然聞かれる。

## 地場産業

**半生菓子、菓子原料等**の売上は、前年比減少との声が多い。「コロナで良くない状況が続いている」「まだまだ悪い。秋も期待できないと思う」などの声。「スーパー、ドラッグストア向けは良好だが、コンビニ向けは減少が続いている。輸出やイベント向け、お土産向けは引き続き悪い状態が継続している」など販路によって好不調がある様子。盆月を控えていることもあってか売上の前月比が増加した業者も見られたが、こうした業者では先行き減少を見込んでいるという。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

**水引製品**の売上の前月比は、やや減少～概ね横ばい。「当月の販売は、ほぼ前月程度。補助金、助成金の取得やその他様々な策を講じて営業を続けているが、明るい材料が見当たらない」「スポット注文も少ない状況が続いている」「梅雨が長すぎた感がある。コロナも含め災害が多く、新盆を迎える気持ちが薄れたのかもしれない」「冠婚葬祭もますます悪化しており、来春まで低迷するのではないか」など、景況感が悪化した業者が多い。先行きも弱含みとの見方で共通しているが、「年末年始に向けて、縁起物関係の取引先から

は、『前向きに準備を進める』との声も聞かれ、心強く感じられた」との声も。こうした中、「各社一陽来復を願っているが、組合全体でも、明るい希望を考えつつ、新製品、宣伝に注力し、この事態を乗り切っていきたい」「お祭り、地方行事、すべてなくなり淋しい年となってしまったが、こんな時こそ家内安全、商売繁盛を祈る様々な正月飾りを提供して、消費者が新年を迎えるお手伝いをしていきたい。全ての方の健康をお祈りしている」などの声が寄せられた。

**漬物の販売**は、前月比やや減少との声。「コロナの再拡大で、少し戻りかけていた業務用需要も再び低迷し始めている」という。また、「7月の長雨で野菜が高騰しており、原料の確保が大変になっている」との声が寄せられた。

## その他製造業

**食品包材**の生産は、前月比概ね横ばいとの声。当月原材料、資材価格に大きな動きはなく、先行きも現状が続く見込みという。

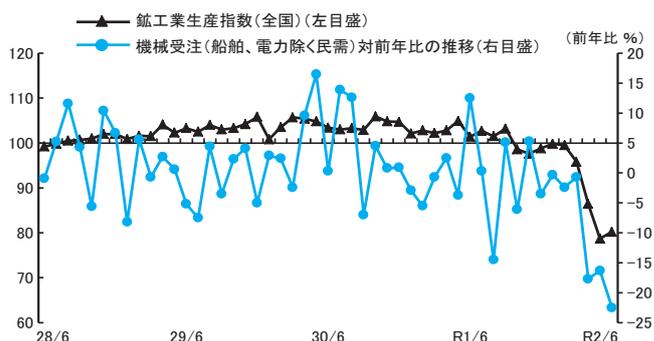
**印刷、出版関連**の売上は、前月比増加も、前年比は減少との声。「相変わらずイベントの中止の通知がポツポツ届く。厳しい状況が続いている」などの声が寄せられた。雇用面で「当面現状維持だが、様子を見て増員したい」との声も。

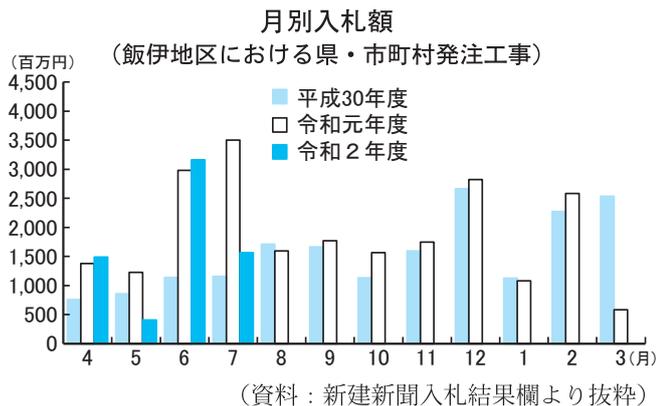
**衣料品**の販売は、前月比、前年比とも増加との声。服飾については、「アパレルの落ち込みは大きい。例年秋物の投入がある時期だが、百貨店などの売上の見込みが立たず、今年は全く投入されない。このままだと恐らく冬物も今期はほとんど見込めないが、春物生産までコロナの影響を受けるとなると、国内外の生産が非常に危ぶまれる」という。このように「本来なら工場の操業を止めなければならない状況」にもかかわらず、「マスク好調」「アイソレーションガウンの受注も大きく、生産にも慣れてきた」など、コロナ需要を取り込んでいるとの声が聞かれた。こうした業者では、「外注先と折り合いを付けるのに苦労する場合も」「マスク生産では、どのアイテムにどの素材が使われるか読めず、素材在庫が増加傾向」などの声も。

### 【企業からのコメント】

- ★お取引先のコロナ関連の様々な申請が通り、仕事が増えることを期待したい。
- ★同業の中には、従業員を休ませ、雇用調整助成金などを受けているところもかなりあるよう。
- ★コロナの関係で注文が激減。先の見通しも立たず、新しいビジネスのスタイルを検討する必要がある。
- ★設備投資は見送りの方向。
- ★災害対策用品に動きが出てきた。
- ★工場は現場が勝負。テレワークでは生きていけない。

## 機械受注・鉱工業生産指数の推移





当月景況DI	0.0 (前月 8.3)
翌月予測DI	-15.4 (前月 -23.1)

## 官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約15.7億円、前月比51%減少、前年比も55%減少している(8月15日調査時点)。

当月の受注残高の前月比は、増加した業者、減少した業者分かれるが、横ばい～増加との声がやや多い。「仕事はしっかりとある」「公共工事は災害復旧工事を中心に工事量は増加している。国は三遠南信自動車道の建設に伴う周辺整備が続くほか、国土強靱化や災害復旧による堤防工事などの発注が多い。県も堅調な工事量が見込まれているほか、市町村も、災害復旧に伴う土木工事の継続に加え、学校関連の改修、設備が見込まれ、例年並み」「年度繰越業務があり、受注残高は前年比増」などの声や、「発注件数は昨年よりも少ない」「まだまだ受注が少なく、今後の課題」「公共工事もポツポツ出てきたが、やはり少ない」などの声が寄せられた。先行きの見方も、弱含みとの声も複数聞かれるが、横ばいないし上向きとの見方が多い。

こうした中、「施工管理者、施行者など不足している」「人手不足・下請け外注やパート、アルバイトをお願いして解消に努めている」「現状は維持も、先行き不足しそう」「施工社員不足」「業務量はあるが、技術者が不足」など雇用面の不足を指摘する声は依然多い。

当月は長雨が続き、施行面で「進捗が激減。手戻りも発生するなど長雨の影響は大きい」との声が寄せられたほか、設備面でも「災害被害で必要となった投資がある。時期は未定だが、購入しなければならない」などの影響があったという。

設備投資に関しては、そのほかにパソコン関連や機材、車両の入れ替えを行っているといった声が多い。

原材料資材価格や工事単価に大きな動きはなかった様子。

また、公共工事に関しては「コロナの影響は今のところ無いように感じる」との声も聞かれた。

## 【令和2年7月豪雨災害 南信州地域振興局、飯田建設事務所管内の被害】

令和2年7月豪雨災害は、上記の通り、当地域の建設事業者にも各方面で影響を与えたが、当地域への被害も少なからずあった。長野県によると、当地域では農業関係の被害額で全県の約40%、治山関係の被害箇所

全県の約33%、公共土木施設の被害額で全県の70%を占める被害が出ているという。

## 令和2年7月豪雨災害 南信州地域振興局、飯田建設事務所管内の被害

人的被害(人 8/3 現在)				住家被害(棟 8/3 現在)		
死者	行方不明	重症	軽傷	全壊戸数	半壊、一部損壊戸数	浸水戸数
1	0	1	0	0	5	26
農業関係被害(千円 7/27 現在)				林務関係被害(箇所 7/31 現在)		
農作物等・樹体被害	生産施設	農地	農業用施設	治山被害(※1)	林道被害(※2)	
3,568	7,600	328,000	379,000	43	179	
公共土木施設(千円 7/22 現在)						
河川	砂防	道路	橋梁			
3,436,000	30,000	10,757,000	400,000			

※1 山腹崩壊、土石流など ※2 路肩決壊、法面崩壊、土砂流出など (資料：長野県)

## 民需

当地区の6月の住宅着工戸数は65戸。前月比51%増加、前年比も14%増加している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、おおむね横ばい。「住宅を除いて新たな物件の受注はない。今は適当な工事量があるが、秋以降の見通しが立っていない」「先行きが見えない不安感がある」「リフォーム、修繕工事のみ」などの声。

当月、コロナの影響を指摘する声が多く、「民間工事の冷え込みもかなりの影響が出るのではないか」「景気そのものが冷え込み始め、設備投資や個人消費の鈍化が痛手になりそう」「民間は、設備投資の見直し、建築計画の延期や見直しが生じており、工事量は減少」「住宅でも雇用や所得環境への不安が生じ、新規受注は低調」「一般工事の先行きが明るくないところに、コロナの影響は住宅関連にも及ぶと思われる。建築は大変」などの声が寄せられた。

## 建設資材

建設資材、塗料等の売上は、前月比、前年比とも減少、景況感悪化との声。もっとも、これは「悪天候のため、前年に比べ動きが大きく悪化した」ことによるもので、先行きは回復を見込んでいるという。

当月の生コンの売上は、地域によって前月比、前年比とも増加との声もあるが、「7月は長雨で出荷ができなかった」こともあり、前月比、前年比ともやや減少との声が多い。当月の主な出荷は、「三遠南信自動車道工事、砂防工事、バイパス工事、築堤護岸工事、ホテル・マンション工事に関わるもの」で、「リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の3%弱」だったという。今後「土砂災害もあり、復旧工事が今後出てくる。9月以降は増えていくのではないか」との声も。

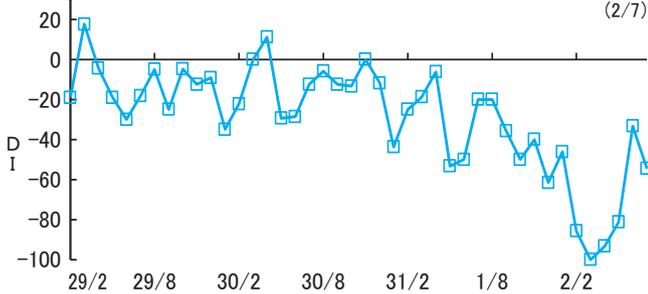
骨材の売上は、前月比、前年比とも減少。「7月の売上は少なかった」というが、ここでも「これだけ長雨が続きと、さすがに影響がある。今後災害復旧工事が出る」との声が聞かれた。こうしたこともあり、「生コン業界もあまり良くないが、秋には好転すると期待」との声が寄せられた。

### 【企業からのコメント】

- ★「運転手不足。求人を出しても応募がない」「増員検討中」
- ★設備投資計画中。
- ★コロナの影響で空店舗も増えるのではないかと。

# 商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-58.3 (先月 -33.3)
翌月予測DI	-35.7 (先月 -28.6)

## 商業

食料品の売上の前月比は、業者により増減が分かれる。しかし、増加したとする業者にあっても「買上げ点数、客単価共に上昇しているが、来店頻度が落ちている。コロナの影響もあると思われる」などの声が聞かれた他、「新盆等の自粛で特注が大幅に減っている」「6月に入ってもイベント等の中止が続き、売上が大幅に減少」などの声が聞かれ、景況感も悪化した業者が複数見られる。

### 【青果卸売市場】

販売は、前月比減少。総じて「長雨による収穫減と作柄の不良」が影響していると言う。

野菜は、「月間を通して雨天が多く、稀に見る雨量を観測し、日照不足で野菜の生育に大きく影響を及ぼした。全体で入荷は約2割減少しており、価格は上昇。特にニンジン、ほうれん草、レタス、馬鈴薯などが昨年比1.5～2倍の価格だった」という。

果実は、「主力の桃は、天候不順で不作だった昨年並みの入荷量。しかも味がのらず価格は低迷。全般に作柄悪く、入荷量は10%減でも、価格は2%ほど安い」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感はやや悪化との声。先行きも弱含みという。仕入価格、販売価格とも大きな動きはなかった様子。お盆を控えた当月、商品在庫がやや増加しているが、今後は落ち着いていく見込みという。

家事用品の販売では、「個人消費の落ち込みがひどい。今回は、簡単には戻らないと思う」などの声が寄せられた。先行き、仕入の上昇が見込まれているという。

電化製品の売上は、前年比やや減少も、これは「前年度、当地区を中心に学校エアコン整備事業があったため」「一昨年対比では伸びている」との声が寄せられた。「引き続き、自宅に留まる時間の増加から、冷蔵庫、テレビ、洗濯機、エアコンを中心に家電が好調。梅雨明け後の気温上昇も好材料」「工場関連では悪化が目立つ業種もある。次月お盆休みもあって稼働日が少ないと見込まれ、今後の動向を注視」などの声が聞かれた。

OA機器の売上は、前月比やや減少との声。「コロナの影響か、十分に売上を伸ばせなかった」という。「テレワークの導入、定着状況を見極めながら、提案、販売促進をしていきたい」との声が寄せられた。

衣料品の売上は、前月比減少も、前年比やや増加との声。「当社の場合、行政の商品券配布の効果があった。購入自粛ムードが解けた感もあり、5～7月の売上は回復基調。ただ、需要先食いやコロナ第二波の可能性もあり、見通しははっきりしない」などの声が寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比13%増加も、前年比19%減少。中古車は前月比15%増加、前年比も10%増加している。6月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比95%増加も、前年比は14%減少。中古車は前月比22%増加、前年比も25%増加した。

## サービス業

市内料理店からは、「5月までに比べると、前年比が少し

ずつ回復している。緊急事態宣言が解除され、宴会や食事の需要が徐々に増えている」「月前半に夜の宴会が入りだし、少人数ながらも毎日予約がある。テイクアウト、常連様の出前も多くなってきた」などの声。一方、新盆、法事の需要に関し、「注文が少ない」「凡そ1/3がテイクアウト」という。当地域を含めたコロナ再拡大の兆しに関し、「キャンセルが増えた」「予約の電話がなくなったとの声も多い」「先が見えないのが一番つらい」などの声が寄せられた。仕入に関し、「種類は揃い出したが、長雨もあって魚、野菜が高い」という。

市内宿泊施設の売上は、前月比増加、前年比はやや減少との声。「コロナの影響が落ち着き始めたところに、大雨でキャンセルが多かった。コロナ第二波やGoToキャンペーンの東京除外の影響も出ている」「稼働率は、現状望みうる最大限を確保したと思うが、昨年と比べると下がっている。同業も同じでは。マーケットが戻るには時間がかりそう」などの声。繁忙期を迎える次月に期待する声も。

昼神温泉の売上は、前年比減少。「コロナの影響継続中。コメントする材料もない」「週末に集中しているが、長雨でキャンセルも多かった」「首都圏、中京圏のお客様は多い。感染には十分気を付けているが、不安は尽きない」「経費から始まり、すべて今までどおりには行かないと考えて経営していかなければならないと思っている」などの声が寄せられた。こうした中、「やはりナイトツアーは根強い商品だと感じる」との声。

タクシーの売上は、前月比増加も、前年比は減少との声。「前月までに比べ減少率は下がってきているが、平日夜間の需要が厳しい」「今後の帰省などを考えると、当地区のコロナの影響を注視している」などの声が寄せられた。LPG価格が「若干の値上がり傾向」という。こうした中、「県内でもコロナの影響を受けている業者は多い。サービスが低下することのないよう、企業間の協力など積極的に考えていく必要があると思う」との声が寄せられた。

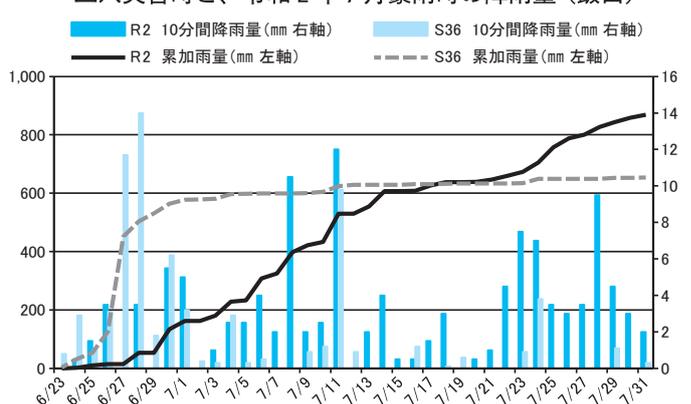
### 【調査先企業の声】

- お盆のアルバイトも、今年は募集しない予定。
- 当社については、目下のところ、コロナの影響はほぼない。
- 公共物件で新たな受注が見込まれる。
- 当社でもテレワーク機材を導入した。
- 地元でも、食品やホームセンターはともかく、売上が減っている業者が多い。行政の商品券配布の効果は大きいと思われるが、厳しい業種もありそう。
- コロナの影響は業界全体に大きい。当社の歴史の中で一番大変な時期だが、事業の見直しも含め、少し落ち着いて展開を考えて生きたい。
- こんな時代で客単価もあまり強気にはできない。
- 設備投資は、見通しが立たないため資金を振り向けられない。

### 【令和2年7月豪雨時の降雨量の推移】

当月は、コロナの影響に関する声の他、長雨に関する声も多かった。下記グラフは本年6月23日から7月31日までの、10分間降雨量、累加降雨量を、三六災害時と比べたもの。今回の豪雨では、長期に雨が降り続き、かつ、強い雨が複数回降ったことが分かる。

三六災害時と、令和2年7月豪雨時の降雨量（飯田）



(資料：気象庁)

## 一 特別調査「新型コロナウイルスの感染拡大による影響について」一

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の報告が世界的に続く中、しんきん南信州地域研究所では、3月に引き続き、コロナが当地域の企業にどのような影響を与えているか特別調査を実施しました。ご多忙の中ご回答いただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回、浜松市の（一財）しんきん地域研究所でも、遠州地域の企業を対象にした同様のアンケートを実施しており、当地域と遠州地域の調査結果を比較したものを一部掲載します。

### 1. アンケート調査結果

#### I アンケート概要：

- ・飯田信用金庫営業店にアンケート用紙を配布、各企業へヒアリングを行い、回収
- ・回答総数 76（製造業 17、建設業 20、卸・小売、飲食、宿泊業、運輸業などを含む商業・サービス業 39）
- ・調査期間 令和2年7月1日～令和2年7月15日

#### II アンケートの結果：

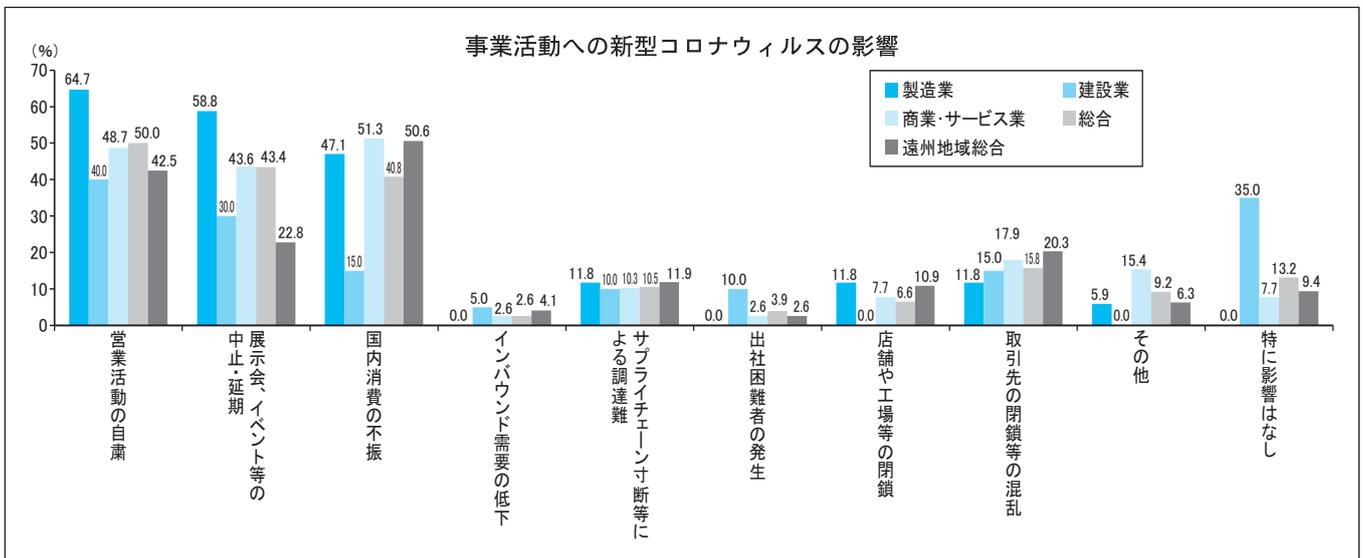
##### ●事業活動に対する影響

調査時点で、コロナが当地域事業者の活動にどのような影響を与えているか、9項目から最大3つ選択してもらった（「特に影響はなし」は1つのみ選択）。

総合では「営業活動の自粛」、「展示会、イベント等の中止・延期」、「国内消費の不振」の順に回答が多く、特に製造業、商業・サービス業において影響があるとの回答が多かった。一方、建設業では影響があったとの回答が他業種に比べて少なく、「特に影響はなし」との回答が多かった。

3月に当研究所で実施したコロナ緊急アンケートでも、建設業における「特に影響はない、又はない見込み」との回答が他業種に比べ多かったが、この点は今回調査でも同様の結果となった。また、製造業においては3月時点でコロナの影響は「分からない」とする回答が他業種に比べ多かったが、時間の経過とともに様々な影響が具体化してきている状況が窺えるだろう。

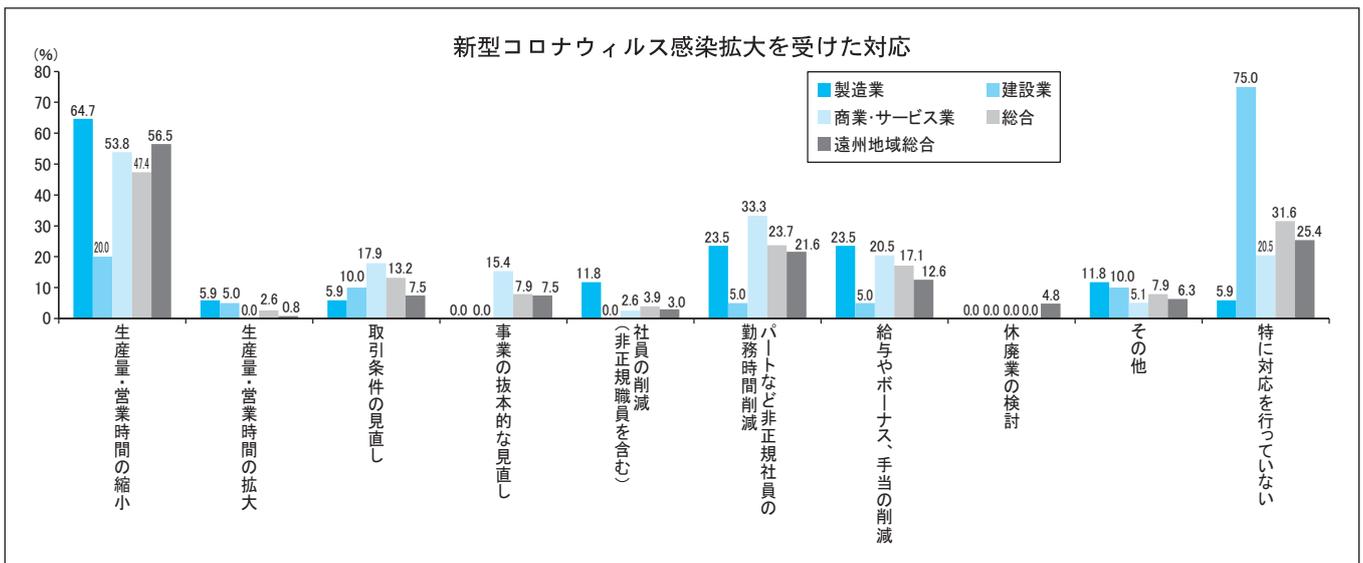
遠州地域の調査結果では、総合では「国内消費の不振」、「営業活動の自粛」、「展示会、イベント等の中止・延期」の順に回答が多く、上位3項目が他の項目に比べ突出して回答数が多い点は当地域の調査と同様の結果だった。とはいえ、上位3項目の中で「展示会、イベント等の中止・延期」を影響としてあげた割合が当地域総合よりも低い点は注目される。



## ● 感染拡大への対応

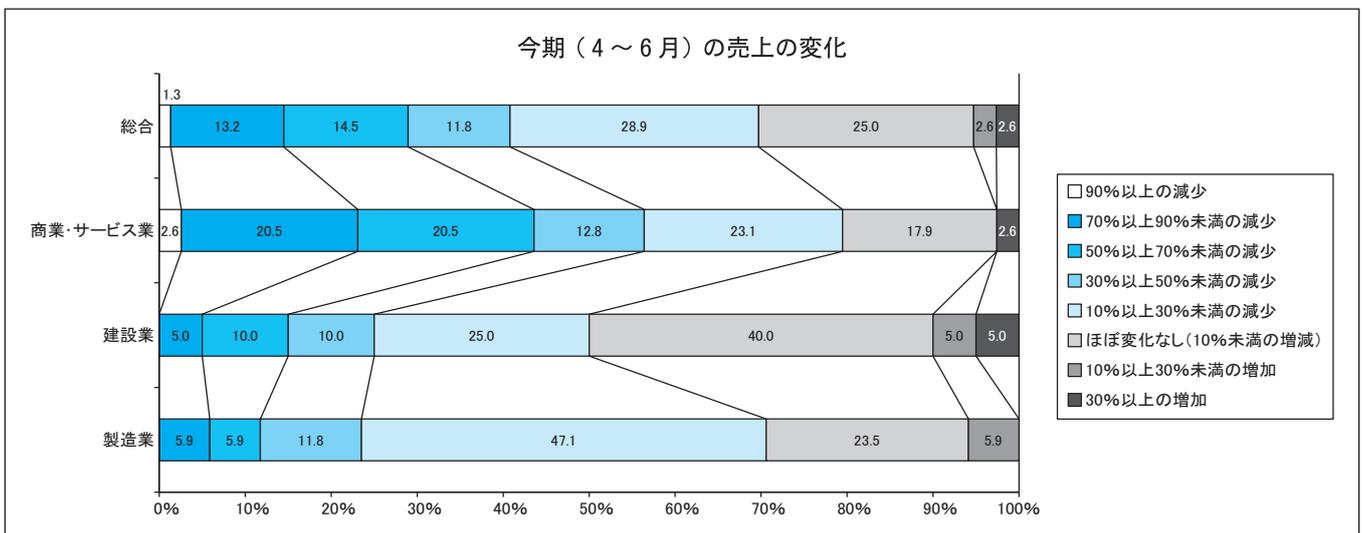
調査時点で、コロナ感染拡大を受けてどのような対応をとっているか、9項目から最大3つ選択してもらった（「特に影響はなし」は1つのみ選択）。総合では「生産量・営業時間の縮小」が最も多く、次に「特に対応を行っていない」が続く。業種別に見ると、製造業と商業・サービス業では「生産量・営業時間の縮小」の次に「パートなど非正規社員の勤務時間削減」、建設業では「給与やボーナス、手当の削減」の回答が多く、生産量や営業時間の縮小が従業員にまで影響を及ぼしていることが窺える。対して、建設業では「生産量・営業時間の縮小」、「取引条件の見直し」などの回答が複数あったが、4分の3の事業者は「特に対応を行っていない」と回答している。3月のアンケートでは、資材の納品遅れ等の影響を懸念する声がかかれたものの、調査時点においてはこうした点も解消されつつあるのか、他業種に比べるとコロナによる影響は少ないとみられる。

遠州地域の調査結果では、総合では「生産量・営業時間の縮小」が最も多く、次に「特に対応を行っていない」、「パートなど非正規社員の勤務時間削減」の順となっており、当地域の調査と同じ順となった。冒頭2項目の調査においては、全業種総合のみの比較で、当地域と遠州地域の調査が似通った結果となった。

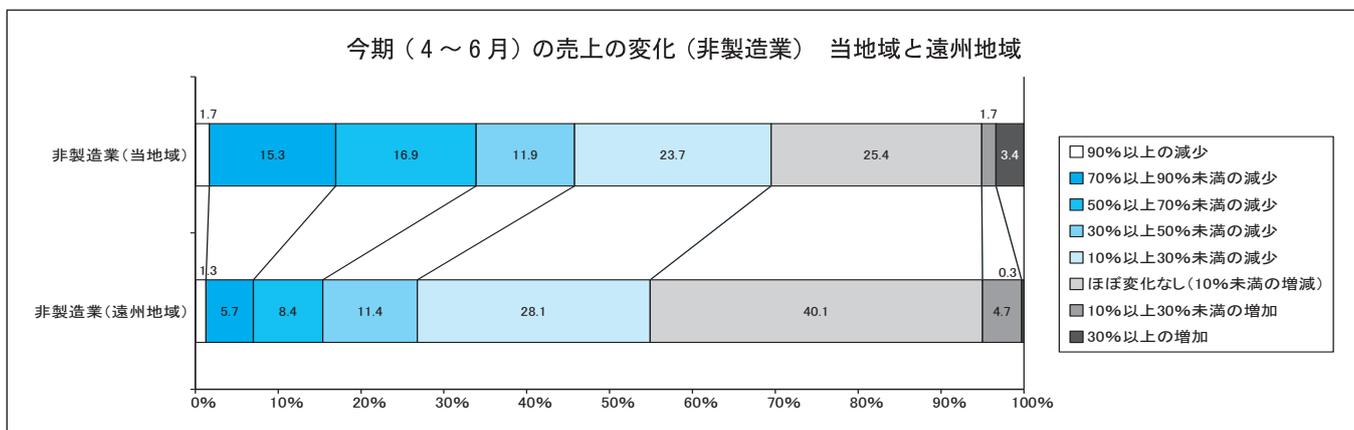
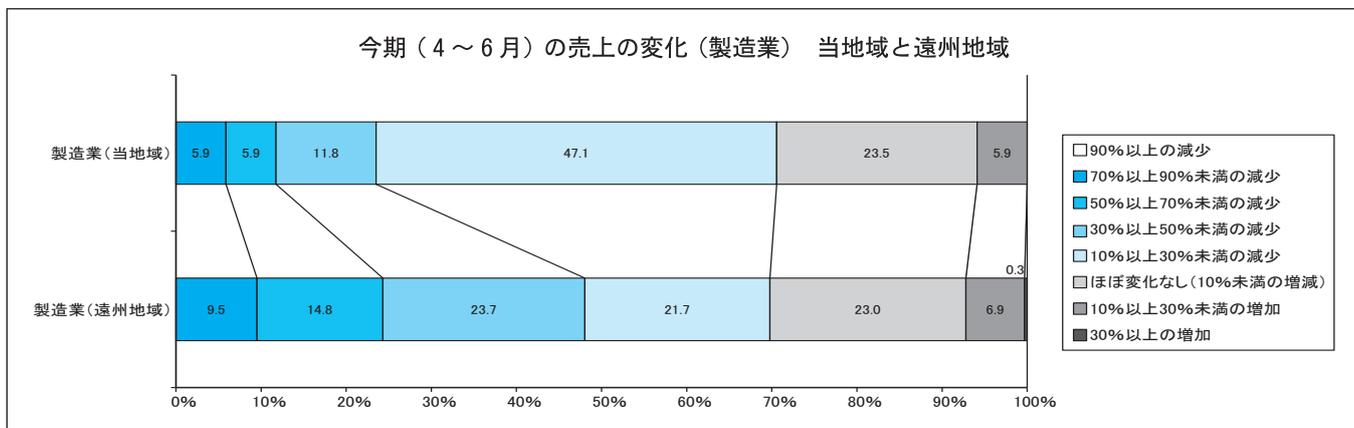


## ● 例年と比較した今期の売上変化

今期（4～6月）の売上が、例年と比較してどの程度変化したかを選択してもらったところ、総合では「10%以上30%未満の減少」が最も多く、次いで「ほぼ変化なし（10%未満の増減）」「50%以上70%未満の減少」と続いた。業種別では、製造業は「10%以上30%未満の減少」の回答が最多、建設業は「ほぼ変化なし（10%未満の増減）」が最多となった。商業・サービス業では「10%以上30%未満の減少」の回答が最多となったものの、次いで「50%以上70%未満の減少」「70%以上90%未満の減少」となっており、30%以上の減収となった事業者が半数を超えるなど、他業種と比べて売上への深刻な影響が浮彫りとなった。

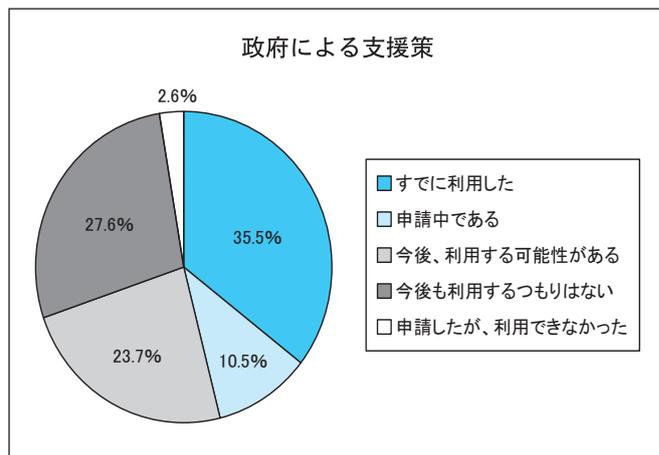
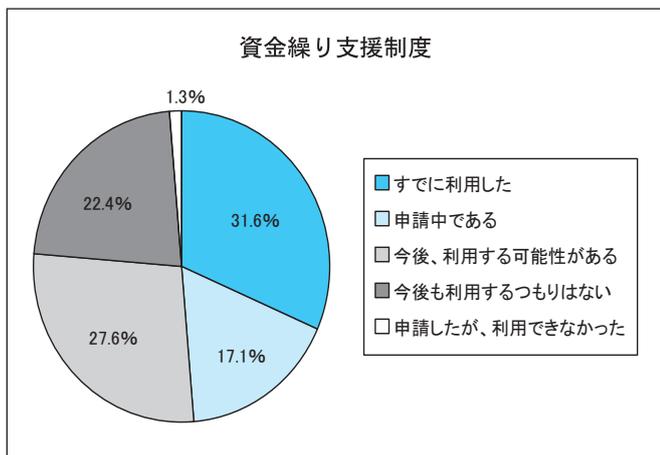


また、製造業、非製造業に分けて当地域と遠州地域の結果を比較したところ、製造業では当地域において30%以上の減収となった事業者の割合が遠州地域の約半分となっている。反対に、非製造業においては、当地域において30%以上の減収となった事業者の割合が遠州地域より20ポイント程度多くなっており、本アンケート調査による限りでは、業種によって対照的な結果となった。



### ● 資金繰り支援制度、政府による支援策の利用

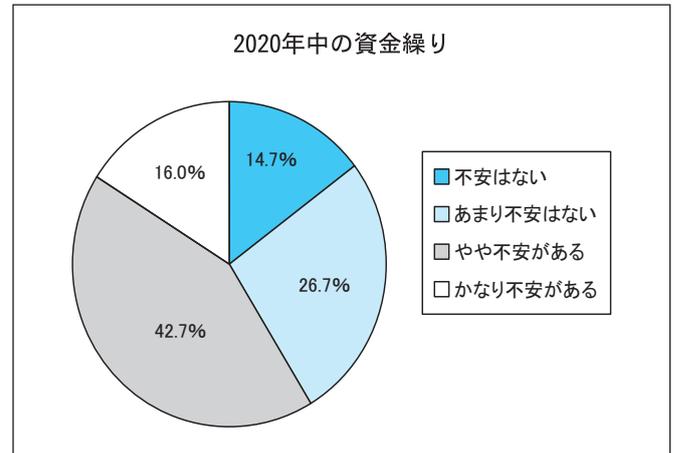
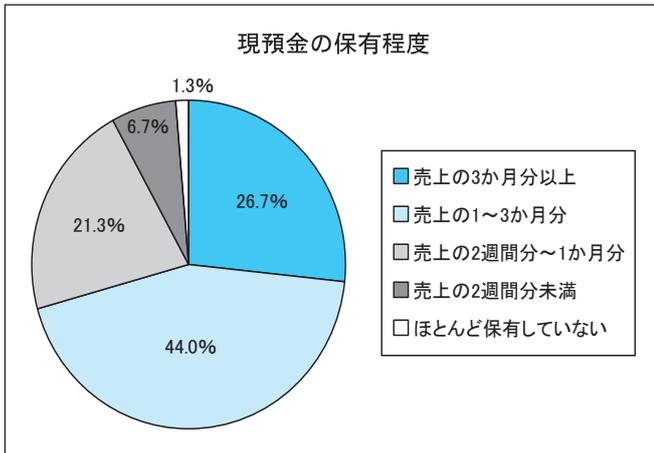
コロナ対応の資金繰り支援制度を利用したかを選択してもらったところ、「すでに利用した」との回答が最も多く、「申請中である」を含めると、約半数が制度を利用しているとの結果となった。資金繰り以外の政府による支援策（補助金、休業補償、減税、納税猶予など）を利用したかについては、こちらも「すでに利用した」との回答が最も多くなったが、「今後も利用するつもりはない」の回答が次いで多い結果となった。



## ● 現預金の保有程度、2020年中の資金繰り

コロナの影響が出る以前、現預金をどの程度保有していたかを選択してもらったところ、「売上の1～3か月分」が最も多く、次いで「売上の3か月分以上」、「売上の2週間分～1か月分」となった。

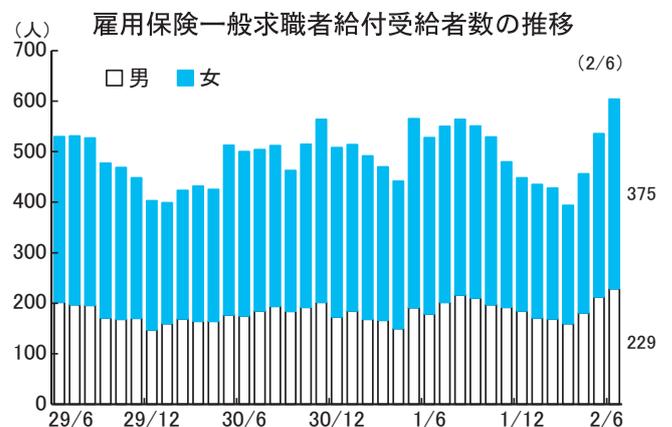
また、2020年中の資金繰りについて選択してもらったところ、「やや不安がある」が最も多く、次いで「あまり不安はない」、「かなり不安がある」の順となった。「やや不安がある」もしくは「かなり不安がある」と回答した事業者が6割近く、資金繰りの面では不安を感じている事業者が多いとの結果となった。



## 雇用の状況



令和2年6月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で0.98倍と、前月から0.03ポイント上昇。パートを除く実数は0.88倍で、前月から0.01ポイント低下している。



令和2年6月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は17人増加、女性も51人増加。全体では604人で、前月から68人増加している。

(資料：ハローワーク飯田)

## お詫びと訂正：

先月の建設業の当月景況DIを、-8.3とお伝えしましたが、正しくは8.3でした。お詫びして訂正いたします。

# With コロナの店づくり

飯田信用金庫 地域サポート部

中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

お盆が終わり、今日は8月20日。コロナ禍で悩んだ末、田舎に帰省した人しなかった人、「GO. TOトラベル」で緊張の中、旅行した人しなかった人、さまざまであったと思います。この全国的な移動が、コロナ感染者拡大に繋がらないことを願うものです。

## 「新しい生活様式」の実践例

さて、新型コロナウイルスに関する政府の感染症対策本部は、5月に感染拡大防止のための「新しい生活様式」の実践例(右図)を示しました。人との接触機会をできる限り減らすために、国民や企業に感染拡大防止と経済活動の両立に向けて社会を挙げた取り組みが始まっています。対策本部では、「再拡大を防ぐには、密閉、密集、密接の(3つの密)を避けるために、買い物や食事、職場といった生活の幅広い場面で「あたらしい日常」が必要である」としています。

このように、国が、感染防止策の徹底を呼びかける中、長野県からも「新しい生活様式」の定着と経済活動の両立を図るために、各部局の具体的方針を定めた「長野県新型コロナウイルス感染症対応方針」が出されています。新型コロナウイルスは、突然消え去るものではなく、状況が良くなったとしても基本的な感染対策は続けなければなりません。

また、企業にも、こういった流れに沿った経営をしてもらうよう各業種や団体のガイドライン策定がされています。企業に対する対策本部の呼びかけでは、「今後、感染拡大の予防と社会経済活動の両立を図っていくには、事業者が提供するサービスの場面ごとに具体的な感染予防を検討し、実践することが必要になる。社会には、さまざまな業種等が存在し、感染リスクは、それぞれ異なることから、業界団体等が主体となり、また、同業種だけでなく他業種の好事例等の共有などを含め、業種ごとに感染拡大を予防するガイドラインを作成し、業界を挙げてこれを普及し、現場において、試行錯誤をしながら、また、創意工夫をしながら実践していただくことを強く求めたい」としています。

これを受けて、人との接触が多い小売業、飲食業、宿泊業にとどまらず、製造業、物流業、金融、医療等、多くの業界や団体から業種別ガイドラインが提示されています。(8月20日現在、159の業種団体が策定公表)

### 飲食・外食産業のガイドラインを一部抜粋しますと、

- テーブルは、飛沫感染予防のためにパーテーションで区切るか、できるだけ2m(最低1m)以上の間隔を空けて横並び座れるよう工夫し、カウンター席は密着しないよう適度なスペースを空ける。
  - 真正面の配置を避けるか、またはテーブル上に区切りのパーテーションを設けるなど工夫する。
  - 大皿は避けて、個々に提供する。従業員等が取り分けるなど工夫する。等、となっています。
- 自粛解除後、いくつかの飲食店に出かけましたが、消毒液やアクリル版の設置、マスクでの接客はもちろんの

### (1) 一人ひとりの基本的感染対策

**感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い**

- 人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。  
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う(手指消毒薬の使用も可)。

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

---

### 移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

---

### (2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- まめに手洗い・手指消毒  咳エチケットの徹底
- こまめに換気(エアコン併用で室温を28℃以下に)  身体的距離の確保
- 「3密」の回避(密集、密接、密閉)
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



密集回避 密接回避 密閉回避 換気 咳エチケット 手洗い

---

### (3) 日常生活の各場面別の生活様式

<b>買い物</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 通販も利用</li> <li><input type="checkbox"/> 1人または少人数ですいたときに</li> <li><input type="checkbox"/> 電子決済の利用</li> <li><input type="checkbox"/> 計画をたてて早く済ます</li> <li><input type="checkbox"/> サンプルなど展示品への接触は控えめに</li> <li><input type="checkbox"/> レジに並ぶときは、前後にスペース</li> </ul>	<b>公共交通機関の利用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 会話は控えめに</li> <li><input type="checkbox"/> 混んでいる時間帯は避けて</li> <li><input type="checkbox"/> 徒歩や自転車利用も併用する</li> </ul>
<b>食事</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 持ち帰りや出前、デリバリーも</li> <li><input type="checkbox"/> 屋外空間で気持ちよく</li> <li><input type="checkbox"/> 大皿は避けて、料理は個々に</li> <li><input type="checkbox"/> 対面ではなく横並びで座ろう</li> <li><input type="checkbox"/> 料理に集中、おしゃべりは控えめに</li> <li><input type="checkbox"/> お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて</li> </ul>	<b>イベント等への参加</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 接触確認アプリの活用を</li> <li><input type="checkbox"/> 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない</li> </ul>

---

### (4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務  時差通勤でゆったりと  オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン  対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

(資料：厚生労働省)

こと、客席間やテーブル間を空けた店舗営業をしています。しかし、ガイドラインで示された多くの項目に対応するには、小さなお店には負担がかかり、さらに、客席数を減らした分の売上減少を確保することは大変な努力が要ることと思います。

また、小売業の予防ガイドラインでは、

- サッカー台（会計後の袋詰めをする台）での顧客間の距離の確保とアナウンスや掲示で距離を保つよう促す。
- 混雑時の入店制限や入店の分散化を図る。
- 必要に応じ、高齢者・障害者・妊婦等の優先時間帯の設定を検討する。
- 精算時は間隔を空けて並ぶ。
- 混雑が予想される店舗や売り場では1グループ1人又は少人数で入場する。等

さらに、宿泊施設における対応ガイドラインでは、

- エレベーターは、内部が過密状態にならないよう乗車人数を制限したり重量センサーの調整をする（少ない人数でブザーが鳴る）
- 浴室、浴槽内における対人距離の確保の要請。
- 宴会の横並び着席の推奨（座席レイアウトの変更）。
- 宴会では、食事開始までのマスク着用の要請。
- お酌や盃の回しのみは控えるよう要請。
- 鍋料理や刺身盛り等は一人鍋、一人盛りに極力変更、従業員が取り分け。
- ビュッフェ方式の食事提供は小皿に盛った提供やスタッフが取り分ける、宿泊客一人ひとりに取り分け用のトングや箸をわたす。等

このように、一部分を掲載しましたが、業界や団体のガイドラインには、多くの改善事項が記載されています。すでに、消費者への協力依頼の広告がされたり、実際に対策をしている店舗や施設もあり、手探りの中、対応を始めています。都会か地方か、店舗規模の大きいか、また、顧客対象の違い等によって該当しない場合や対応できない場合も当然あると思いますが、消費者側の協力を得ながら、大なり小なりガイドラインに沿った対応をしていかなければなりません。つまり、私たちの暮らしは、コロナを警戒しながら経済を回していくというスタイルに踏み出しています。テレワークをはじめ、デジタルを利用したオンライン会議、オンライン学習、オンライン診療、オンライン結婚式、オンライン法事等のように新しい生活や仕事も始まっております。企業も消費者も、好むと好まざるに関わらず、新生活様式（ニューノーマル）を受け入れていかなければなりません。

\*\*\*\*\*

## 中小企業生産性革命推進事業のご案内（本紙494号で一部掲載済み）

国は、新型コロナウイルス感染症対策として中小企業生産性革命推進事業を実施しています。

この事業は、既にある「小規模事業者持続化補助金」「ものづくり、商業、サービス補助金」「サービス等生産性向上IT導入補助金」に、コロナ対応の「特別枠」をそれぞれ設けています。3つの補助金の「特別枠」には、共通する3つの事業（下記の類型ABC）実施の要件があります。

- \* 類型A サプライチェーンの毀損への対応事業
- \* 類型B 非対面型ビジネスモデルへの転換事業
- \* 類型C テレワーク環境の整備事業

また、補助対象経費の1/6以上を3事業に投資することが条件となっていたり、母体補助金や事業類型によって条件が違います。さらに、事業再開に向けた感染防止のための投資の上乗せもあります（条件あり）。

今後、3事業を実施予定、あるいは検討している事業主の皆さんは、各営業店あるいは地域サポート部（TEL 0265-53-5811）までお問い合わせください。

## 三遠南信地域の港 三河港の現状 (1)

「三遠南信地域の港」とも言える三河港について、港湾管理者である愛知県三河港務所から情報提供をいただいたので、紹介する。海なし県の当地域において「港」は馴染の薄いものであるため、基本的なところから始めることとしたい。

### 1. 三河港とは

三河港は、愛知県の三河湾に位置する西浦（蒲郡市）、蒲郡（同）、豊橋（豊橋市）、田原（田原市）の4港が、昭和37年5月に統合され、「三河港」となったものである。

昭和39年4月には重要港湾に指定されている。

**重要港湾** 国際戦略港湾、国際拠点港湾以外の港湾で、海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重要な関係を有する港湾として政令で定めるもの

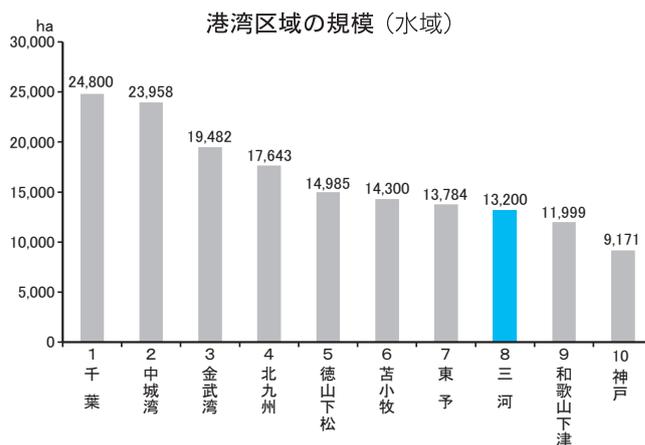
**国際戦略港湾** 国際海上コンテナ運送に係る国際海上貨物輸送網の拠点となり、国際海上貨物輸送網と国内貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾で、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な港湾として政令で定めるもの

**国際拠点港湾** 国際戦略港湾以外の港湾で、国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾として政令で定めるもの

(以上 港湾法第2条)

港湾区域（水域）は、田原地区の白磯と蒲郡市西浦の御前崎を結ぶ線で区切られる132平方キロメートルで、全国で第8位の規模となる。

これに対し、港湾地区（陸域）は、三河港は5.5平方キロメートルで、第28位となっている。



(国土交通省 HP 2020年4月1日現在)

三河港概要図



(愛知県三河港務所 HP)

## 2. 三河港の全国での位置は

次に、国土交通省公表データにより、三河港の全国の港湾での位置を確認しておく。

### (1) 入港船舶数

2018年の入港船舶数は、13,939隻で全国第66位の規模。ランキングを見ると、内航運輸が発達している瀬戸内地域や西日本の港湾が上位を占めている。

これを、外航・内航別にすると、三河港は外航は1,152隻で22位であるが、内航は12,787隻で74位となっている。当港が外航船の出入りの多い港であることが判る。



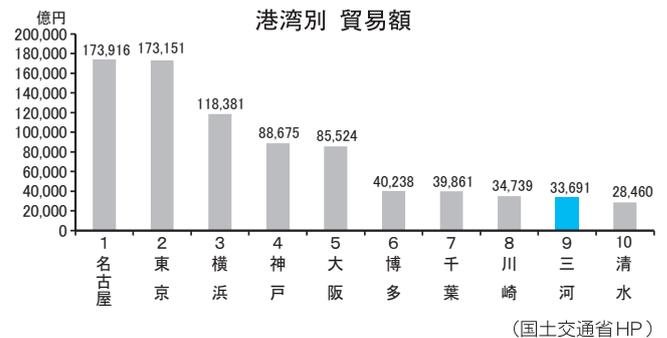
### (2) 港湾取扱貨物量

取扱貨物量（2018年、輸出・輸入・内貿・内航フェリー計）は、三河港は2,353万トンで第33位となっている。



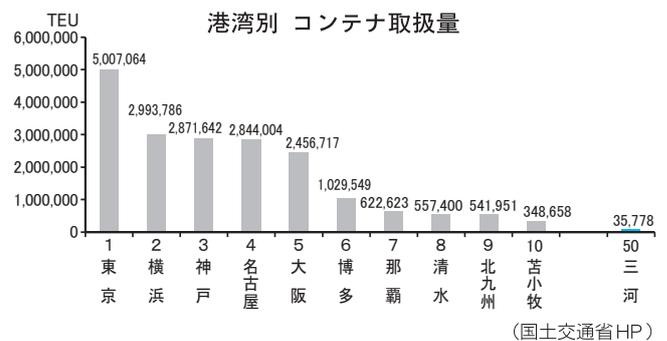
### (3) 貿易額

貨物取扱量に対し、貿易額（2019年、輸出・輸入計）は、三河港は33,691億円と全国第9位と上位に入ってくる。うち、輸出額は25,424億円で第7位であるが、輸入額は8,267億円で第18位となる。



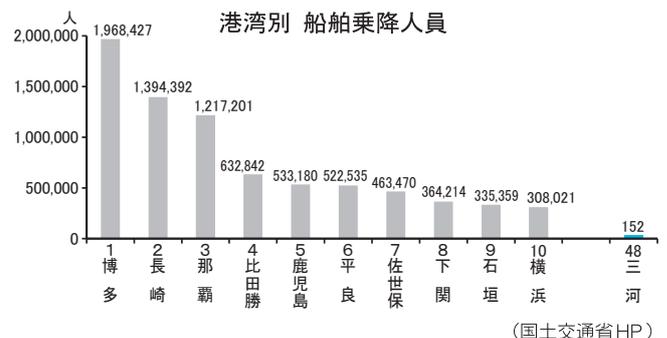
### (4) コンテナ取扱量

国が戦略的課題として取り組んでいるコンテナ輸送については、2019年速報値のコンテナ取扱貨物量（外貿・内貿計）は、三河港は35,778 TEU（ISO規格コンテナの20フィートコンテナに換算したコンテナ数量）で第50位となっている。



### (5) 船舶乗降人員

2018年の船舶乗降人員（乗込・上陸計）は、三河港は152人で第48位。内訳は乗込152人で、上陸はゼロである。



## 3. 三河港の特徴

国交省データで見る三河港は、入港船舶数や取扱貨物量に比して貿易額が全国有数の地位を占めている、即ち「稼ぐ力が大きい港湾」と言える。反面、コンテナ輸送対応に余地を残している。三河港には人の動きが少ない、と言えそうである。

以後、三河港務所提供のデータにより見ていくこととする。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)